

関東信越国税局長賞

笑顔にする税金

羽生市立南中学校

二年 磯 千夏

私は、夏休みにボランティア体験で子ども食堂の手伝いに参加しました。その日のメニューは、キーマカレーや若鶏の竜田揚げ、夏野菜の素揚げ、オムレツ、琥珀糖でした。私は、かき氷係を担当しました。氷をけずって、シロップをかけて外で順番を待つたくさんの人に配りました。手伝いが終わってから、私も百円を払って、一緒にお昼ご飯を食べました。その時に、子ども食堂の方が、

「最近、物の値段が上がってしまって、赤字だから、やっていくのが大変なのよ。」

と話していたことが印象に残りました。私は、確かに、こんなにたくさん料理があつて、それが百円で食べられることであるのかな、と疑問に思いました。そこで私は、子ども食堂について調べてみることにしました。

調べてみると、子ども食堂と税金に関わりがあることが分かりました。子ども食堂は、地域住民のボランティア等が、子供やその保護者、地域の住民に対し、無料または安価で栄養のある食事を提供する場所です。食事の提供だけでなく、孤食の解消や食育の推進、地域交流の場として重要な役割を担っています。子ども食堂の運営には、食材

費や会場費、水道光熱費などのお金がかかるため、個人や企業からの寄付金や、利用者からの参加費、行政からの補助金や助成金が必要となります。調べてみると、補助金や助成金は、国や地方公共団体がみんなの役に立つものに限って渡してくれるお金だということが分かりました。そして、その補助金や助成金のもとになっているのが、みんなが納めた税金だということを知りました。羽生市にも様々な補助金がありました。例えば、羽生市民活動応援補助金は、多くの市民の利益につながるものであるかなど、必要な条件を満たしていると補助金が交付されます。交付決定の一覧を見ると、子ども食堂や合唱団などに交付されていましたが、私が手伝いに行った子ども食堂の名前はありませんでした。私は、補助金をもらうための条件が厳しかったり、毎回もらえるものではないのかな、と思いました。そして、子ども食堂で栄養いっぱい美味しい食事を子供も大人も笑顔で食べていた姿を思い出して、補助金の力を借りて、子ども食堂がずっと続いて欲しいなと思いました。

私は、子ども食堂での体験を通して、税金が補助金や助成金という形になって使われているということを学びました。税金は、学校や、図書館、道路など身近な目に見える物に使われているだけでなく、困っている人や、だれかを笑顔にしたいという思いを持った人の活動を支えていると思いました。みんなが納めた税金でたくさんの人を笑顔にできるということを忘れずに、私もしっかりと納税の義務を果たせる大人になりたいです。